

6 サインの計画

サインは特定あるいは不特定の人に対する情報伝達手段の一つであり、文字・図・記号等によって施設の内容やそれらの構成を明確にし、人々の活動や行動を円滑にするものである。本学のキャンパスは広大で複雑な空間構成を持ち、分かりやすいキャンパスづくりにサイン役割は大きい。

また、機能面のみならずサイン自体の形状・色彩・素材あるいは文字・図・記号等に統一性やデザイン性を持たせることによって、豊かなキャンパス環境や建物空間を構成する重要な要素となる。

キャンパスリニューアル計画では、既存のサインを生かしながら、必要に応じて見直しを行い Way Finding で豊かな環境を目指す。

○キャンパスの入口の明確化

出入口を明確にすることは来訪者のアクセスを容易にする。市街地の誘導標識を充実するとともに、入口を示す大型のサインあるいはモニュメンタルな造形物を配する。

○外来駐車場・バス停を案内拠点とする

警備員室をインフォメーションセンターと位置付け、その機能を表示する。不案内な来訪者は全て警備員室のある出入口に誘導する。

また、外来駐車場と学内駐車場を区分し、それを顕在化し案内の起点とする。そのため駐車場の識別サインと周辺地区の案内図を整備する。

公共交通機関利用者の起点はバス停である。ここにも外来駐車場に準じたものを設ける。

○方向系サインの整備

来訪者に対しては、駐車場・バス停と各建物群の案内所(事務室等)を結ぶ動線上に方向系サインを整備する。また、ベデには学生・教職員等の移動を支援する方向系サインを整備する。小規模のものとし変更・修正に対処する。

○識別系サインの整備

建物の入口付近の見やすい位置に統一したデザインのものを整備し、来訪者及び学生・教職員双方の利便性を高める。また、同種の大型サインをループ道路から読める位置に適宜設置する。また、奥まった施設にはループ道路からそこへ通じる道路の入口に大型のサインを設置する。

大型識別サインは多分にイメージ的存在である。来訪者、学生・教職員を問わずキャンパス内の様子が外から分かるようにすることが目的である。ループ道路を一周すると大学の全体像がほぼ掴めるように整備する。分かりにくいキャンパスは開かれているとは言えないし、身近に感じる事が難しい。

○建物内部のサインシステム

建物内部のサインシステムは屋外のサインに次いで必要である。特に構造が複雑な第二・第三学群等は現行のままでは目的地への移動が困難であり、安全上も好ましくない。現在検討中の大学会館のサイン計画をベースに充実を図る。

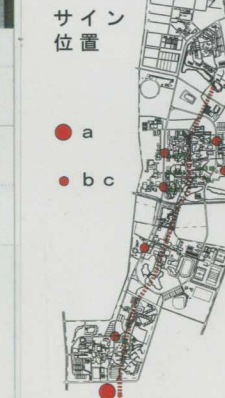
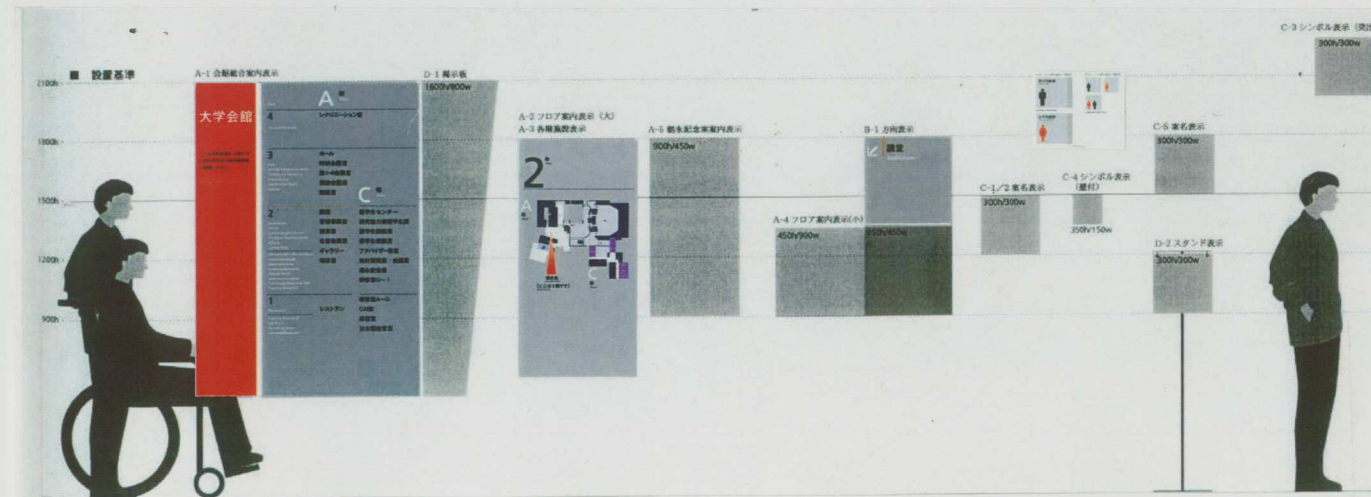
○障害者のためのサイン

「9 ユニバーサルデザイン」の項による。



パブリックスペースのサイン

はしめての来訪者にもわかりやすいサインの設置



大学の入り口が認識しづらい

車で来訪者も容易に認識できるサインの設置

ループより建物が認識できる

サイン 建物の壁に設置

案内センターで行き先確認



ループ道路で行き先近くの駐車場がわかりづらい

来訪者が行きたいゾーンとその付近の駐車場の確認できるサインの設置

来訪者が駐車場から目的地までのルートがわかりづらい

学系事務区までのルートがわかるサインの設置



基本となるサイン計画は生かし、よりわかりやすくするためのサインの設置

サイン位置

a

b c